

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和5年10月27日（金）10:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：吉野長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、御案内していた時刻になりましたので、ただいまから10月27日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○吉野総務課長 報道官の吉野です。

原子力規制委員会の広報日程について御説明いたします。

まず、資料の10月31日、「審査会合、会見などについて」の3番目の案件です。

第503回核燃料施設等の新規制基準適合性に係る審査会合が開催されます。対応は杉山委員です。

議題は、日本原子力研究開発機構（JAEA）新型転換炉原型炉ふげんの新型転換炉原型炉施設原子炉設置変更許可申請についてです。

JAEAのふげんの使用済み燃料の再処理をフランスで行うために、設置許可の申請内容のうち、使用済み燃料の処分の方法の変更を行うというものでございます。

次に、1201回原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合です。対応は杉山委員です。

議題は、北海道電力株式会社泊発電所3号炉の設計基準への適合性についてです。

議題1については、本体施設について、耐震津波設計方針を審議するための入力津波の設定について議論がされるという予定でございます。

議題の2は、東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所第6号機の設計及び工事の計画の審査についてです。

本件は、平成25年に申請が出ております。その後、平成29年12月に設置変更許可が出ましたので、それを受けて、本年9月14日に補正が申請されました。今回は補正後の初めての審査ということになっておりまして、事業者から説明を受ける予定となっております。

次に、7番目の案件、第5回東京電力福島第一原子力発電所事故に関する知見の規制への取り入れに関する作業チーム事業者意見聴取会合です。11月1日に開催されます。対応は大島原子力規制部長。杉山委員も同席される予定でございます。

議題は、東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所1号炉の原子炉補機冷却系の汚染に関する調査・分析から得られた知見に関する各プラントの調査結果についてです。

1F（福島第一原子力発電所）の事故から得られた知見のうち、補機冷却系において高線量の汚染が確認されておりました、その推定原因としては、熔融燃料が圧力容器から格納容器の下に落下して、そこにあったペデスタル内の機器の配管を破損したということが原因になっているという推定がなされております。これについて、8月30日に、ほかのプラントについても、補機冷却系の配管が格納容器の下でどのように配置されているかということなどについて事業者から説明を受けるべきだという指摘がなされておりました、それについて対応するために事業者から意見を聴取するというものでございます。

次に、11月2日の案件です。第4回震源を特定せず策定する地震動の規制導入の経過措置に係る意見聴取会が行われます。対応は、大島原子力規制部長です。

議題は、標準応答スペクトルの取り入れに関する経過措置について、意見聴取を行うというものでございます。

これについては、設置変更許可の審査のめどがある程度立っている施設が多くなってきたということを踏まえまして、変更のあった施設について、いつまでに使用前確認を受けることを求めるのかと。その経過措置を決めるために、変更を行う事業者から意見を聴取するというものでございます。

9番目が、第28回特定兼用キャスクの設計の型式証明等に係る審査会合です。対応は金城長官官房審議官です。

議題は、トランスニュークリア株式会社特定兼用キャスクの設計の型式証明についてです。

トランスニュークリア株式会社が製造する、貯蔵・輸送両方に使える兼用キャスクの型式について、証明のための審査を行います。前回、本件は6月21日に審査を行っております。

次に、10番目の案件、第32回原子力発電所の高経年化技術評価等に係る審査会合です。これも11月2日に開催されます。対応は金城長官官房審議官です。

議題は3つありまして、1つ目が、中国電力株式会社島根原子力発電所2号炉の高経年化技術評価です。

島根原子力発電所2号炉は、30年目を迎えるための評価を受ける原子炉でございまして、8月31日に本体施設の設工認の認可を受けておりました、それを踏まえた補正が提出されたことから、補正後、初の審査を行うというものでございます。

議題の2は、九州電力株式会社玄海原子力発電所3号炉の高経年化技術評価についてです。

この玄海原子力発電所3号炉も、30年目を迎えることに伴う審査でございまして。4月20日に本件は概要説明を受けておりますので、今回、具体の説明を事業者から引き続き受けるという予定でございまして。

議題の3は、東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所4号炉の高経年

化技術評価です。

これも30年目を迎えます。今回が初めての審査となっております、申請概要について事業者から説明がある予定となっております。

同じく、11月2日に、第14回特定原子力施設の実施計画の審査等に係る技術会合が開催されます。対応は伴委員と田中委員です。

議題1は、2号機燃料デブリの試験的取り出しに関する実施計画の変更認可申請についてです。

2号機から燃料デブリの取り出しを行う際の安全確保のための管理方法について、9月の技術会合に引き続き審査を行います。

議題の2と3は、4号機横の廃スラッジや滞留水がたまっている建物の廃止措置を進めるために、廃スラッジ等の回収を行うための施設、また、滞留水を貯留タンクに移すための操作について申請がなされて、実施計画の変更を審査するというものでございます。

議題2については、3月と6月に同会合で審査を行っておりまして、そこで出た質問について、事業者から回答を受けるということが予定されております。

議題3については、7月に申請があり、今回審査を行うものでございます。

議題4は、固形状の放射性物質に関する検討状況についてです。

年度末にかけて、今年も1Fのリスクマップの改定が予定されております。そうしたものの視野に、固形状の放射性物質について、処理の検討状況を整理するというものでございます。

本日は以上でございます。

また、11月3日は祝日になっておりますので、記者会見は行いません。お休みとなります。

以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

ハシグチさん。

○記者 NHKのハシグチです。お願いします。

確認なのですが、(11)の議題1の2号機のデブリの試験的取り出しについてなのですが、これは、これまでに出されている計画の内容についてということですね。

○吉野総務課長 はい。9月に引き続いての審査ですので、申請内容が変わるということはありません。

○記者 分かりました。

あと、来週の規制委員会、1日なのですが、議題は、一部報道では川内原発の運転延長認可のことも出ていましたが、その辺りは決まっていることはありますでしょう

か。

○吉野総務課長 準備に向けて作業を進めておりますが、議題の確定については来週お話ししたいと思います。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

タシマさん。

○記者 共同通信のタシマです。よろしくお願いします。

広報日程とは関係ないのですが、一昨日に、1FでALPS（多核種除去設備等）処理水の配管の洗浄中、廃液を浴びた作業員の方がいらっしゃって、何名か被ばくされた。そのことについて、規制委のほうには何がしかの報告は上がっているのでしょうか。

○吉野総務課長 1Fの処理については、処理の過程で起こったものについては、原子力災害対策特別措置法に基づいて、逐一こちらのほうに事故の状況の報告がございます。そうした事故が発生したこと、そして、その後の処理についても逐次報告が来ております。

○記者 どういった内容の報告を受けていらっしゃいますか。

○吉野総務課長 今のところ、作業者が被ばくしたという話、そして、除染がし切れないので、福島医大のほうで除染を継続しているということがこれまでの状況で把握をしていることです。まだ除染については福島医大のほうで対応されていると伺っております。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—